

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001088		
法人名	株式会社 フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス大塩		
所在地	愛知県名古屋市中川区大塩町3丁目25番地		
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果市町村受理日	平成22年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市加木屋町内堀136番地の2
訪問調査日	平成22年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ごとのニーズや季節に応じた各種行事を行なっています。時には普段行けないような場所へ皆様でお出掛けをする事もあります。1ユニットのグループホームなので、一人ひとりの想いを大切にできる家庭的な施設です。
職員は協力して、ご利用者様の変化を見逃さず、ご利用者様が日々を安心して過ごして頂ける施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げているように一人ひとりの笑顔と想いを大切にしようと、個人を尊重して日々の介護にあたっており、地域の一員として愛されるホームを目指し、お祭りなどのイベントに積極的に参加している。職員間や利用者とのコミュニケーションが良好でありホーム全体の雰囲気良く笑顔が多い。熱帯魚の飼育、毎日の散歩を兼ねた清掃活動を通して単調な日々にならないよう配慮されている。今後、さらに地域との関わりを強くするために、積極的に老人会に加入して交流を深めたり、町内会役員を引き受けたり、地域ボランティアの受け入れなど意識した活動を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりの笑顔と想いを大切にし 地域の一人としてみんなに愛されるホームを目指す」という事業所理念のもとに、その実践を目指し日々職務を遂行している。 また、事業所理念は玄関に掲示し、共有している。	法人の理念とホーム独自の理念を玄関、事務所の見やすい位置に掲示し、常に振り返り共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれるお祭りや敬老会などに参加させて頂き、交流を行なっている。 また、地域防犯パトロールのビブスを着用してホーム周辺の清掃活動も行なっている。	地域からの呼びかけでお祭り、老人会の行事に参加、回覧板で地域の情報収集も行っている。散歩を兼ねてホーム周りの清掃活動を通して近所の人と挨拶を交わしている。	利用者と地域の交流をさらに深めるためにホームの行事の際、町内会、老人会などに声かけをおこなっていくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談があれば積極的に答えたり、実習生の受け入れを積極的に行なっている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者から出た意見を参考にして、サービス向上に努めている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。民生委員、利用者代表、介護福祉事業者、管理者で構成され、議題は近況、行事予定などが報告されている。	包括支援センター、区役所職員などに参加を要請するとともに、町内会長、老人会長など身近な存在の参加もお願いしたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に区役所の保護係などを訪ね、状況を報告している。 また、市町村実施の説明会などに毎回参加して情報を得、サービス向上に繋げている。	区役所の生活保護係に計画プラン等を提出。市町村が開催する説明会に参加して同業者からも情報を得て、必要に応じて意見交換を行っている。	区役所の生活保護係へ利用者の状況報告だけでなく、介護保険関連部署へホーム全体の報告や行政側の情報収集を期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は18:00～翌7:00までは防犯のため施錠しているが、それ以外の時間帯では開放している。 また、身体拘束の廃止に関するマニュアルを、職員が閲覧出来るようにしており、身体拘束を行わないケアの実践に日々努めている。	朝7時から18時までは開錠している。玄関扉の開閉はチャイムで確認できる。身体拘束マニュアルが職員間で閲覧できるよういつでも見られる場所に置いてある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令に関する勉強会は行なっていないが、ミーティングや日々のケア・会話の中で話し合い、虐待の防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は学ぶ機会があったり、後見人の方と意見交換をして、ご本人様の支援に活用しているが、職員については十分に学ぶ機会や意見交換の場がないので、今後の課題としていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時のご利用者様、ご家族様と契約書・重要事項説明書を1から全て読み上げ確認し、不安や疑問が残らないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホーム玄関に設けて意見を汲み取れるように努めている。 また、重要事項説明書に外部の苦情報告連絡先を記載し、連絡が出来る仕組みがある。定期カンファレンスでも話し合い、運営に反映させている。	家族の面会時に意見、要望を傾聴して内容は申し送りノートに記入、全職員が確認できるようになっている。管理者への専用の連絡ノートがあり連絡もれのない体制が整っている。玄関の目につきやすい場所に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課の際に、上司や会社に対する意見を書くことができ、その後の話し合いで意見・提案を話し合う機会があり、運営に反映させている。また、毎月の運営会議でも話し合い、反映に努めている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り毎月1回のミーティング以外でも意見を聞きだすよう努力している。年に2回の人事考課の際にも管理者と個別に話ができる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を支給するなど、個々の能力に応じた対応をしている。また、36協定も結び、残業をなるべくさせない取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じ、法人内外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の事業者連絡会や名古屋市主催の同業種の研修に参加して交流を図っている。 また、法人内や協力法人との合同懇親会も行なわれ、意見交換をしてサービス向上に反映させている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	3ヶ月毎のケアプランに連動し、ヒアリングを行いご本人様が安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前のヒアリングや年1回開催の家族会などで意見を聞き、関係構築に努めている。 契約後も電話や書面連絡などで随時関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前ヒアリングやケアプラン作成におけるヒアリング・日々の様子観察や家族様との連絡を密に行い、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自己にて出来る事は行なっている。 また、ホーム内作業もお手伝いをして頂き、日々の生活を皆で協力して行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用契約前にご家族様・ホーム、そしてご本人様の三者で協力してご本人様を支援していく旨をお伝えしている。 また、契約後も面会に来て頂いたり、何かあれば直ぐにご家族様に連絡をさせて頂き、共に支援させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様・ご家族様の了承があれば、友人・知人・親族の面会を積極的に受け入れている。	昔馴染みの人に会いたい時は可能な限り対応するよう努力している。友人の面会や年賀状を送るなど積極的に関わりを持つようにしている。墓参りや故郷に行きたい要望等をくみ取り関係者と話し合いを重ね実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子観察からの声かけや、毎回の職員ミーティングで話し合い集団支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、関係機関やご家族様から問い合わせがあった場合、個人情報保護に照らし合わせて必要な情報は提供し、関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様からの生活に対する意見があった場合(食事メニューやレクの要望など)は傾聴し、意向に沿うよう努めている。 また、ミーティングなどでも職員同士で話し合う場を設けている。	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。自分から意見を言わない人にも入浴介助時や居室で利用者と二人きりになった時などにまんべんなく聞けるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用契約前にご本人様・ご家族様、その他ご本人様を支援している方からヒアリングを行い把握に努めている。 契約後も必要に応じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察を個別記録に記入して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録やご本人様・ご家族様の意向を基に、現状に即した計画を作成している。 また、3ヶ月に1回の見直しも行なっている。	積み重ねられた個人の情報や日々の記録から現状に即したプランを計画、3カ月に1度見直しされている。週1回利用者へのヒアリングをおこない、家族の要望も反映された介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録やケアの中から、職員間で情報を交換・共有し更なるケアの向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間やご家族様・各種サービスと連携してご本人様のニーズに対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、お祭りや運動会・敬老会など地域行事やお出掛け場所などを把握し、支援に努めている。 他にも消防や警察との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、提携医院の医師による往診がある。その他にもご本人様・ご家族様の希望を第一に、かかりつけ医と連携した受診支援を行なっている。	24時間緊急対応の医師が週1回往診、別日に看護師が健康管理を行っている。家族と協力してかかりつけ医への通院介助も行っている。利用者の写真入りで既往歴、内服薬一覧がすぐわかるファイルが作られ活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の様子変化については看護師が来所された時に相談、報告をして支援に努めている。尚緊急時は随時連絡を行なっている。週に1度、訪問看護師に来て頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム内でのご利用者様の情報を提供するなど、かかりつけ医や入院先病院の医師と連携を図っている。 また、退院後も安心して受け入れが出来るよう、互いに情報交換が出来る関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様・ご本人様の意志を尊重しつつ、事業所で出来る事を充分説明した上で各関係機関と連携を図り、支援に努めている。	入居前にホームが対応し得る最大のケアについて利用者、家族に説明を行っている。利用者、家族の意向をふまえ、終末期までホームで過ごすことを希望された場合は相談の上、可能な限り対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的には行っていないが、緊急時の対応についてはマニュアルを作成して話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	区の消防署と連携し、ホーム内で避難訓練を年2回定期的に実施して、防災意識を高めている。	マニュアルを作成、年に2回夜間も想定した訓練、年4回の防災会議、自主防災点検を年1回行っている。事務室にボタン一つで消防につながる緊急連絡装置が設置され3日分の水、非常食の備蓄がある。	災害時、普段から地域の協力が得られるよう町内会、運営推進会議で呼び掛けていくことを期待するとともに、利用者の安全を考慮し消防計画の作成、スプリンクラーの設置について検討したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長く共に生活を送っているため、信頼関係が築けてくると時折、言葉遣いが雑になる時が見られるが、一人ひとりを尊重した言葉遣いを心がけている。	職員全体が「9人の利用者が気持ちよく過ごせるように」との思いを持ち、入居前の事情も考慮して新たな人間関係が構築できるよう日々配慮している。個別の伝達事項がある場合、周囲に漏れないよう細心の注意をはらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか思いや希望を表に現せない時は、職員がゆっくりと傾聴したり問いかけたり、時には場所や時間を変えたりするなどして、ご本人様が希望を言える様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりの生活ペースを大事にし、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	高価な装飾品は禁止しているが、それ以外はご利用者様の安全を確保した上で、その人らしいおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳は一人ひとり行なって頂き、洗い物やテーブル拭き・食事準備は出来る方と一緒にこなしている。	職員と利用者が同じテーブルを囲んで、なじみのある音楽をかけ楽しく食事できるよう雰囲気作りを大切にしている。毎月24日の寿司の日は、にぎりかちらしをセレクトできる。15時のおやつは手作りを心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分バランスは個別記録に記入し、個々に把握出来るよう努めている。栄養バランスは1ヶ月の献立メニューを事前に作成してバランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや付き添っての介助など、その方の能力に応じたケアに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排泄が上手く出来ない方は声かけ誘導を行い、失敗がないように努めている。	排泄チェック表を使用して排泄リズムを把握、時間をみて声をかけトイレでの排泄を大切にしている。失禁時、人前であからさまな声かけをせず利用者のプライドを尊重してさりげなく別室へ移動して介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の健康体操や天気の良い日の散歩・その他運動を行い、水分摂取を増やすなどして取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に添えるようにと行っているが、ご利用者様の体調や安全を第一に入浴をして頂けるように支援している。	隔日に入浴、希望で夜の入浴、同姓介助にも対応している。利用者のできることを尊重して洗える部分は利用者自身で洗えるよう介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせた睡眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く処方箋にて確認し、薬の把握に努めている。 また、職員はダブルチェックや服薬介助者を決めるなどして、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみなど、個々の生活歴を活かしてお手伝いをして頂き、日々のやりがいに繋げている。 また、レクリエーションでも個々の特技を活かしたものを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や個々の身体状態に併せて支援を行っている。 しかし、地域の人々との外出協力は地域行事関係以外は希薄である。	ほぼ毎日散歩に出かけ、寒い時期でも月1回、春秋の気候の良い時期は週1回外出行事が組まれ全員が戸外へ出ることに積極的に取り組んでいる。今後、町内会、老人会に外出ボランティア募集の件を兼ねて機関紙等でPRしたいと考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者へ譲渡の可能性があるため、個人所持は控えている。但し、希望があり、その方がお金に対する理解があれば小額を所持して頂くよう支援している。 使用に関しては職員の見守りのもとで、買い物に出かけるなどの支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が取り繋ぎ、ご本人様がやり取りできるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた空間作りを行い、ご利用者様が季節を感じ、安心して楽しく過ごせる工夫をしている。	長く過ごす居間には利用者の作品で季節感のある飾り付けがされ熱帯魚を飼育しているため癒しになっている。ソファには各自の居場所が確保され安心感につながっている。居室の案内は顔写真と職員のメッセージ入りであたたかな雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の広さの問題で、独りになる空間作りは難しい。個別のソファが置いてあり、そこで自由にくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が馴染みのものを使用して、以前の場所と生活環境がなるべく変わらないよう工夫をしている。	写真や仏壇が持ち込まれ居心地のよさに配慮、衣類の枚数を制限しないためおしゃれが楽しめる。各部屋に温度計を設置、夏場の脱水症状や日々の健康管理に気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の随所に手すりが付いていたり、分かり易いように張り紙をして、自己にて安全で自立した生活が送れるように工夫している。		